

第5節 Windowsの学習状況

Windowsの学習に関する質問は回答者全員に尋ねているので、第5節の回答者数は99人である。

1. Windowsの学習手段

Windowsを初めて学習したときは、友人・知人、職場の同僚、家族、ボランティアに教えてもらうほかに、メーリングリストやインターネットを情報収集の手段として活用した回答者が多かった(表3-5-1)。

視覚障害者向けの講習会または研修コースの主催者の内訳は、日本盲人職能開発センター(3人)、地方自治体(のIT講習会)(4人)、日本障害者雇用促進協会(3人)、視覚障害者福祉協会(2人)などであった。

その他の学習方法の内訳は、マニュアル、参考書等の利用(6人)、福祉関係機関職員による個別指導(4人)、JBS日本福祉放送(3人)などであった。

表3-5-1 Windowsを初めて学習したときに用いた手段(n=99。複数回答)
2000年度の調査結果をもとに、質問票の選択肢として具体的な理由を10項目用意した。

手段	回答者数
友人・知人から教えてもらった	53
メーリングリストで情報を収集した	47
インターネットで情報を収集した	29
職場の同僚に教えてもらった	20
家族に教えてもらった	15
ボランティアに教えてもらった	15
視覚障害者向けの講習会/研修コース	14
メーカー・販売店のサポートを利用した	13
まったく一人で学習した	8
一般向け講習会/研修コースを受けた	2
その他	16

2. Windows利用時、困ったときの援助者

Windows利用時、困ったときの援助者は、友人・知人、家族、メーカー・販売店、職場の同僚、ボランティアの順に多い(表3-5-2)。これは、学習時の援助者とほぼ同じ順位である。ここでも、メーリングリストは多くの回答者(52人)に利用されている

表 3-5-2 Windows 利用時、困ったときの援助者 (n=99。複数回答)
2000 年度の調査結果をもとに、質問票の選択肢として具体的な理由を 7 項目用意した。

援助者	回答者数
友人・知人	68
メーリングリストで尋ねる	52
家族	42
メーカー・販売店	41
職場の同僚	28
ボランティア	18
まったく一人で対処する	8
その他	7

3. Windows を学習する上で困った点

Windows 利用上の問題点としては、ハングアップによる音声出力の停止 (78 人)、スクリーンリーダーが画面を十分に読み上げない (76 人)、キーボードでできない操作がある (75 人) が回答数が多かった (表 3-5-3)。

視覚障害者用研修コースの問題点の内訳は、終了後のサポート体制が整っていない、中級以上のコースがない、ボランティアの知識不足 (キー操作、障害者用ツールについて)、視覚障害に対する知識不足、職場の講習では一般向けのコースしか用意されない (各 1 人) であった。

表 3-5-3 Windows 利用上の問題点 (n=99。複数回答)
2000 年度の調査結果をもとに、質問票の選択肢として具体的な理由を 16 項目用意した。

問題点	回答者数
ハングアップによる音声出力の停止	78
スクリーンリーダーが画面を十分に読み上げない	76
キーボードでできない操作がある	75
システムの状態がわかりづらい	65
専門用語の意味がわかりづらい	49
Windows の画面 / 概念がわかりづらい	40
マニュアルにキー操作の説明がない	36
オンラインヘルプ / マニュアルが音声で利用できない	36
マニュアルの説明が視覚的	34
困ったときの人的サポートを得にくい	32
点字・カセットテープ・テキストファイルのマニュアルがない	30
操作方法がわかりづらい	25
スクリーンリーダーの音声に問題がある	24
関連情報を得にくい	18
研修コースに問題がある	6
その他	17